

数字で見る普天間飛行場



普天間飛行場の面積

475.9ha (東京ドーム約100個分)

普天間飛行場は、まちの中心部に位置し、市面積（約19.8km²）の約24.0%を占めています。また、市の北側にあるキャンプ瑞慶覧の面積（約1.062km²）も合わせると市面積の約29.4%が米軍施設によって占められています。

宜野湾市の人口密度（令和2年1月末現在）

約5,038人/km²

基地の面積を除いた場合

約7,137人/km²



基地を除いた宜野湾市の人口密度は、東京都（約6,169人/km²）や大阪府（約4,640人/km²）を上回るものとなっています。

（宜野湾市の人口 99,762人 令和2年1月末。東京都・大阪府の人口密度はH27国勢調査より）

年間騒音発生回数

11,404回（平成30年度 上大謝名地区）



上大謝名地区では、1日あたり31.4回（平成30年度）もの騒音が測定されています。基地周辺では、日常的に騒音にさらされた生活を余儀なくされており、住民にとって大きな負担となっています。

騒音最高値

124.5dB（令和元年5月16日 上大謝名地区）
18時19分測定

夜間騒音最高値

100.1dB（平成31年2月14日 上大謝名地区）
22時53分測定



令和元年度に測定された騒音最高値は124.5dBで、この値は「飛行機のエンジン近く」よりもさらに大きな騒音とされています。また、日米合意で22時以降の飛行は制限されているにもかかわらず、夜間騒音も度々記録されています。

騒音の大きさ	具体例	騒音の大きさ	具体例
120dB	飛行機のエンジン近く	100dB	電車通行時のガード下
110dB	自動車のクラクション（前方2m）	90dB	騒々しい工場内

環境基準超過日数 187日 (平成30年度 上大謝名地区)

環境省が定める環境基準値（生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準）を超えた日数が、平成30年度では**上大謝名地区で187日**を記録しており、昼夜問わず市民生活に深刻な影響を及ぼしています。

普天間飛行場の常駐機 58機

①MV-22B オスプレイ	24機	③UH-1Y ヴェノム	6機	⑤UC-12W	1機
②CH-53E スーパースタリオン	12機	④AH-1Z ヴァイパー	12機	⑥UC-35D	3機



所有形態・地主数・軍人数・従業員数

地主数 3,834人 (平成30年3月末)

(※市内在住者：約2,300人)

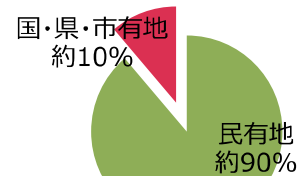
年間賃借料 約74億7700万円 (平成29年度実績)

軍人・軍属数 約3,200人

日本人従業員数 218人 (平成30年3月末)

(※宜野湾市全体の従業員数32,121人；平成28年経済センサス (総務省)) ※全体の**約9割**が民有地

所有形態別面積の割合



基地と財政

一般会計歳入額に占める基地関係収入の割合

8.3%

※基地関係収入

基地があることで生じる諸費用や返還地の整備等に係る諸経費について、国から交付される交付金、補助金を計上したものと。

宜野湾市における一般会計歳入と基地関係収入との関係



宜野湾市の一般会計歳入額に占める**基地関係収入の割合は8.3%**にも関わらず、基地があることによって都市計画や施設配置に影響を及ぼすなど、市の経済発展を阻害する要因となっています。

一方で、近年基地関係収入が増加している要因としましては、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区（平成27年3月返還）や普天間飛行場東側部分（平成29年7月返還）の返還に伴う事業費の増加等が挙げられます。